



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

## —第22回— 防災について（自助、共助、公助）

職場、学校など様々な場所で、防災について学ばれていると思いますが、皆さん一人ひとりがもう一度身の周りで起こる災害について考え、災害に対する備えに取り組むために、今回は、「防災」について紹介します。

### 「防災の日」について

毎年9月1日は防災の日。1923年9月1日に、「関東大震災」が起きました。この震災の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風に対する心構えの意味も含め、1959年9月の「伊勢湾台風」襲来の翌年1960年に閣議了解されました。

### 「自助」、「共助」、「公助」について

あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、意味は下のとおりです。それぞれが、役割を十分に果たすとともに、相互の密接な連携が大切です。

#### 自助

自らの生命・財産は  
自らで守る。



誰でも被災する可能性はあります。自分たちの命は自分で守ることが大原則であり、平常時から安全確認、防災知識の習得、災害時の備えなど出来る所から手を付ける事が大切です。

各家庭では、家具の転倒防止などの安全対策や、避難場所と経路の確認、家族の安否確認方法などを話し合っておくことが被害を少なくする方法の1つです。

#### 共助

自分たちの地域は  
自分たちで共に支え合う。



被災直後の近隣住民同士が力を合わせて、救出・救護、初期消火、安全な避難などができる組織作りが必要です。

自主防災組織がない場所では、関心のある人が集まり、自治会などの住民組織を母体に結成することをお勧めします。市町村などの防災窓口にご相談することも1つの手です。

平日頃より近隣住民とのつながり、コミュニケーションが大切です。

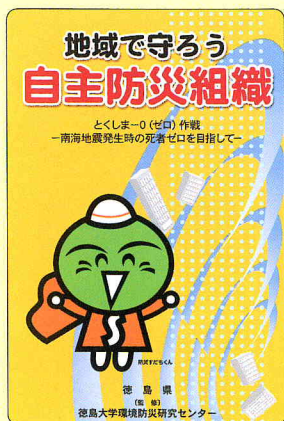
#### 公助

行政が地震や津波に強い  
社会づくりを進める。



インフラ整備により、地震や津波などの災害に強い社会、国土作りを進める一方、各住居への「耐震診断」、「耐震補強」等の各種助成も行っています。

各自治体では、災害対策基本法に基づき、地域防災計画を定めています。行政機関が対処すべき事務や業務の大綱、住民の生命・身体・財産等を災害から保護するための総合的な指針や対策がまとめられています。



■ 自治体では、防災マニュアルやハザードマップが配られています。避難場所、災害に備えるためのポイントなど事前にご確認ください。

■ 左は「地域で守ろう自主防災組織」  
右は「地震から命を守る」  
の広報資料です。  
共に徳島県のホームページに掲載されています。

徳島県防災・危機管理情報 安心とくしま。  
南海地震 啓発資料

参考URL

[http://anshin.pref.tokushima.jp/normal/earthquake/news.html?cid=earthquake\\_edification](http://anshin.pref.tokushima.jp/normal/earthquake/news.html?cid=earthquake_edification)